

- 放送日 12月3日(火)、10日(火)
- テーマ  
「松くい虫から諏訪地域のマツを守ろう！」
- 出演者  
諏訪地域振興局林務課 専門幹兼森林保護専門員 青柳 智司
- 聞き手とのやりとり(概要)

Q1 「松くい虫」とはどのようなものですか。

A1 松くい虫とは、「マツノマダラカミキリ」と「マツノザイセンチュウ」の2つの虫のことで、この虫によって発生する、マツが枯れる病気を総称したものです。

マツノマダラカミキリ(体長は、18mm~30mm)に寄生したマツノザイセンチュウ(体長1mm)は、6月頃にマツノマダラカミキリがマツの樹皮を食べるためにマツに取り付いた瞬間に木に飛び移り、木の内部に侵入します。その後爆発的に増加し、マツノザイセンチュウの働きにより根から吸い上げる水の流れが止まり、多くの場合、1ヶ月程度で葉が赤くなり完全に枯れてしまいます。

夏から秋にかけて、マツノマダラカミキリはその被害木に産卵し、卵からかえった幼虫は、樹皮下で成長し、マツの木の中で越冬しますが、それにあわせマツノザイセンチュウは、マツノマダラカミキリに乗り移ります。そして、またマツノマダラカミキリが健全なマツに取り付いて樹皮を食べる時にマツノザイセンチュウが取りついて、マツを枯らします。これを毎年繰り返して被害が拡大していきます。

木によっては翌年の春になってから枯れる場合もあり、この場合、被害木の発見が難しくなっています。

Q2 被害の状況はどのようなものですか？

A2 全国の松くい虫被害量は、昭和54年度の約243万m<sup>3</sup>をピークに減少傾向にあります。平成30年度の被害量は、約35万m<sup>3</sup>となっていてピーク時の1/7程度です。北海道では、まだ被害が確認されていません。

長野県における被害は、昭和56年に旧山口村で最初の被害が確認され、平成25年に過去最高の78,870m<sup>3</sup>を記録しました。平成29年度の被害は、74,049m<sup>3</sup>で、全国1位の被害量であり、被害量は高止まりの状況です。

諏訪管内では、平成 30 年 8 月 30 日に初めて、岡谷市で松くい虫被害が発生しました。今年は、すでに岡谷市で 3 本の被害が確認されています。

Q 3 「駆除する方法」や「予防する方法」があったら教えてください。

A 3 まず駆除する方法は、マツノマダラカミキリとマツノザイセンチュウとの関係を立ち切きるために、枯れた被害木をきりたおして 1 メートル位に玉切りし、枝と一緒にビニールに包んで、薬剤処理をするくん蒸処理の方法。被害木を全て焼却する方法。

被害木を細かくチップのようにする破碎方法。

ただし、枯れてマツノマダラカミキリが脱出した後では効果がありません。

次に予防する方法として、マツ樹体内にマツノザイセンチュウが増殖できないように樹幹に薬剤を注入する方法。

また、アカマツの枯損木を早期発見するため、各市町村においては、松林監視員さんを 1 名から 4 名委託しており、諏訪管内で計 11 名で巡視を行っています。

Q 4 我々や市民の方々が被害予防で協力や注意することがありますか？

A 4 まずは、赤く枯れている松の木を発見したら、各市町村の林務担当課へ報告をお願いします。早期発見し早期に駆除することが、今一番大切なことです。

また、庭木で大切なアカマツがありましたら、樹幹注入剤を打ってアカマツの活力を高めておくことも一つの予防措置です。

Q 5 最後に

A 5 諏訪地域では、昨年被害木が確認されました。くどいようですが、今後の被害を拡大させないために「森林内で赤くなって枯れているアカマツ」を発見したら、市町村の林務担当者へ連絡を入れてください。マツノザイセンチュウの有無を確認するためにドリルで穴を開けて木片を取らせてもらいますので、ご理解とご協力をお願いします。

解らない事がありましたら、諏訪地域振興局 林務課 普及林産係にお問い合わせください。

電話 0 2 6 6 - 5 7 - 2 9 2 0